

公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン 評価委員会 議事録

1. 日 時

令和5年12月5日（火） 午後6時30分から午後7時50分

2. 場 所

公立藤岡総合病院 入院棟2階 大会議室

3. 出席者

(1) 評価委員会委員

藤岡市 副市長	塚本 英夫
高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学科 准教授	木村 憲洋
藤岡市区長会 会長	針谷 章（欠席）
藤岡市国民健康保険運営協議会 会長	反町 清
群馬医療福祉大学 看護学部 教授	源内 和子
藤岡市鬼石商工会 会長	林 直男
藤岡商工会議所 副会頭	守口 謙二
藤岡多野医師会 会長	栗原 透
関東信越税理士会 群馬県支部連合会藤岡支部 支部長	池田 弘敏

(2) 病院長

公立藤岡総合病院	塚田 義人
藤岡市国民健康保険鬼石病院	工藤 通明

(3) 事務局

公立藤岡総合病院	
経営管理部長	三井 清光
参事兼しらさぎ管理課長	横坂 政彦
企画財政課長	新井 恵介
企画財政課長補佐	齋藤 功志
企画財政課グループリーダー	萩原 和美
藤岡市国民健康保険鬼石病院	
事務長	秋山 弘和
事務課長	金沢 寿長
事務課長補佐兼庶務係長	櫻井 力
事務課医事係長	古市 広美

1 開 会 （午後6時30分開会）

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

皆様、こんばんは、本日は夜間の会議となりましたが、お疲れのところご出席いただきありがとうございます。定刻になりましたので、「公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評価委員会」を開会させていただきます。私は、本日の進行をさせていただきます鬼石病院事務課長の金沢と申します。どうぞよろしく願いいたします。

なお、藤岡市区長会の代表である 針谷 章様は、所用のため、本日の会議は欠席でございます。初めに、資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、事前に郵送させていただいたものと本日配布したものがございます。まず、郵送したものと、次第と設置要綱です。次に 資料1と資料2で、資料1は、公立藤岡総合病院改革プラン継続計画です。資料2は鬼石病院の改革プラン継続計画です。本日配布した資料3は「公立病院経営強化プラン」の資料です。以上でございますが、不備のものはございませんでしょうか。

続いて、委員の皆様にご報告させていただきたいことがございます。ご存じの方も多いと思いますが、当委員会の委員長を務めていただいていた高橋前副市長におかれましては、本年7月19日にご逝去されました。その後、本年9月20日に塚本新副市長が就任されましたので、残任期間を引き継いでいただくことになりましたことをご報告いたします。

次に、次第の2、「委嘱状の交付」をさせていただきます。塚本副市長については、交付済みでございます。委嘱状は、本来ならば公立藤岡総合病院の管理者、及び鬼石病院の開設者であります藤岡市長より交付すべきものですが、公務のため出席できませんので、市長代理として「塚本副市長」より、委嘱状を交付させていただきます。副市長が席を回りますので、お名前をお呼びいたしましたら、その場でご起立いただき、委嘱状をお受け取りください。

池田 弘敏様

【塚本副市長】

委嘱状、池田弘敏様。公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評価委員会委員に委嘱します。令和5年10月30日、多野藤岡医療事務市町村組合・管理者・新井雅博。藤岡市国民健康保険鬼石病院・開設者・新井雅博。どうぞよろしく願いいたします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

ただ今、委嘱状を交付させていただきました、新任の委員をご紹介します。池田弘敏様は、関東信越税理士会 群馬県支部連合会藤岡支部長でありまして、「経営状況分析の専門家」として委嘱させていただきました。なお、本日欠席の針谷章様は、藤岡市区長会長

でありまして、「地域住民代表」として委嘱させていただくものです。今後ともよろしく願いいたします。

次に、当評価委員会の委員長選任について皆様にお伺いいたします。当評価委員会の委員長については、委員会設置要綱第5条の規定により、委員の互選により定めるとしております。当委員会では発足時から藤岡市副市長がその職を務めてきた経緯がございますので、引き続き新副市長に委員長に就任していただくことでよろしいか、お諮りしたいと思います。

「異議なし」

ありがとうございました。塚本副市長におかれましては、委員長として委員会運営にご協力をお願いいたします。それでは、当委員会の名簿を配布いたします。

3 あいさつ

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

次に、次第の3「あいさつ」で、ございます。初めに、ただいま当評価委員会の委員長に任命されました藤岡市塚本副市長より、ご挨拶をお願いいたします。

【塚本委員長】

前任の高橋副市長のご逝去にともない、任命されました副市長の塚本と申します。皆様には、公私ともにお忙しいところ、公立藤岡総合病院・鬼石病院の改革プラン評価委員会にご出席いただきありがとうございます。ただいま、関東信越税理士会 群馬県支部連合会 藤岡支部長の池田様に委員の委嘱をさせていただきました。専門のお立場から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類に移行して半年余りが経過しましたが、まだまだその感染力から、医療従事者の皆さまは気の抜けない日々をお過ごしのこととされます。改めまして、医師会の先生方をはじめ両病院長には、日々、市民の健康を守るためのたゆまぬ努力に対し感謝を申し上げます。「医療」は市民生活にとって大変重要なものであると共に身近になくってはならないものでありますが、それには医療機関が健全な経営の下、安定した事業運営をしていくことが重要です。「公立病院改革プラン」は、毎年度、事業実績を基に評価し、今後の事業運営について考える場がこの評価委員会でございます。

本日は、両病院の令和4年度の実績を踏まえた進捗状況について、委員の皆様には評価をしていただき、ご意見等をお願いいたします。公立病院は、地域に必要な医療を提供し、地域住民の命と健康を守り、地域貢献することを使命としています。

皆様からのご意見を今後の病院運営に活かしていきたいと考えていますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

続きまして、公立藤岡総合病院の塚田病院長より、ご挨拶をお願いいたします。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

藤岡総合病院病院長の塚田と申します。日頃より当院をご支援いただきありがとうございます。本日は、令和4年度の改革プランの実績評価が中心になります。

2020年から新型コロナウイルスが本格流行し、通常診療も大きな影響を受け、一時期は病床の稼働も激しく落ち込みましたが徐々に回復の兆しも見えますが、感染拡大前の状態に回復するよう今後も計画を推進していきたいと思っていますので、よろしくをお願いいたします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

続きまして、鬼石病院工藤病院長より、ご挨拶をお願いいたします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

鬼石病院の工藤です。お集まりいただきありがとうございます。皆様からご意見をいただき今後の病院運営に生かしていきたいと思っております。地域の医療に貢献できるよう頑張りたいと思っております。

4 議 題

(1) 改革プランの説明及び進捗状況について

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

続きまして、次第の4「議題」となります。

病院改革プランは、新公立病院改革ガイドラインに基づき作成されたもので、点検評価を年1回以上行う事とされております。本プランは平成28年度に当初の計画を策定し5年計画としていましたが、国が、次のプランの策定についての指針を示す時期を、令和5年度に延期したことから、本プランの「継続計画」を令和2年度に策定し、現在に至っております。本日、委員の皆様には、令和4年度の実績について評価をいただきます。なお、会議内容は公表する事になっておりますので、この委員会の会議の内容は録音させていただき、議事録を作成後、それぞれの病院のHPで公開することとなりますので、あらかじめご了承願います。

それでは、これより議事に入りますが、設置要綱第6条第1項により、これ以降は、委員長に議事進行をお願いしたいと思います。それでは、塚本委員長よりお願いいたします。

【塚本委員長】

それでは、しばらくの間、議長をつとめさせていただきます。着座にて議事を進めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題（１）、改革プラン令和４年度実績の説明及び進捗状況について、藤岡総合病院、鬼石病院の順で、事務局から一括で説明をお願いします。

【公立藤岡総合病院 企画財政課グループリーダー 萩原】

公立藤岡総合病院・企画財政課・萩原と申します。よろしくお願いいたします。着座にて説明させていただきます。新公立藤岡総合病院改革プラン令和４年度実績の説明をさせていただきます。

病床は、急性期病床 295 床、回復期リハビリテーション病床 48 床、地域包括ケア病床 47 床、人間ドック 5 床、感染症病床 4 床の、合わせて 399 床で稼動しております。回復期リハビリテーション病床と地域包括ケア病床を効率的に稼動することにより、地域の急性期医療機関として、疾病に対して適切な医療を提供しております。

病床種別については、地域医療構想に沿う形で運用し在宅支援に向けた診療の強化を図っております。

それでは、４年度における医療機能等指標についての実績値を報告させていただきます。資料 1 の 1 ページ下段の「④医療機能等指標に係る数値目標」をご覧ください。

「(1) 医療機能・医療品質に係るもの」の中の救急患者数は、令和 3 年度実績に対し 172 人増の 10,021 人、「全身麻酔の手術件数」は、令和 3 年度実績に対し 37 件増の 1,250 件となりました。「救急患者数」は、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度と比較しても同水準となってきました。今後も地域の中核病院として、現在運用している急性期病床 295 床の稼動率を高め医療の質の確保に努めてまいります。

紹介率は令和 3 年度実績に対し 5.4 ポイント増の 68.5%、逆紹介率は令和 3 年度実績に対し 3.4 ポイント増の 90.5%となります。地域医療支援病院としての承認要件を維持するため、今後も紹介率、逆紹介率を高めて行くよう努めて参りたいと考えております。

(2) その他の中の医療相談件数は、総合相談室のサポートにより令和 3 年度実績に対し 1,377 件増の 27,531 件となっております。

患者満足度は、日本医療機能評価機構の患者満足度調査において、満足、やや満足を合わせた結果であり、令和 3 年度実績に対し、7.6 ポイント増の 73.4%でした。

特に満足度の低い項目は、食事の内容、病室・浴室・トイレの設備であり、院内に組織されているサービス向上委員会で検討、改善を行うことで患者本位の医療を担保していきます。資料 1 の 2 ページをお開き下さい。

(2) 経営の効率化について説明させていただきます。まず令和 4 年度の各実績数値ですが、

「1) 収支改善に係るもの」の中の経常収支比率は、令和 3 年度に対し 11.6 ポイント増の 109.8%。医業収支比率は、令和 3 年度に対し 2.8 ポイント増の 95.1%となりました。

「2) 経費削減に係るもの」の中の診療材料費対医業収益比率は、令和 3 年度に対し 0.7 ポイント減の 6.8%、薬品費の対医業収益比率は、令和 3 年度に対し 1.4 ポイント増の 20.5%、職員給与比率は、令和 3 年度に対し 2.5 ポイント減の 51.1%、100 床当たりの職員数は、令和 3 年度に対し 1.8 ポイント減の 150.5 人となりました。

3) 収入の確保に係るものの中の 1 日当たりの入院患者数は、令和 3 年度に対し 1.8 人増の

282.1人、「1日あたりの外来患者数」は、令和3年度に対し5.2人増の672.3人となりました。新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度水準に患者数が戻らない現状であります。

4) 経営の安定性に係るものの中の現金預金残高については、令和3年度に対し1億4,089万5千円増の36億1,116万6千円となりました。こちらに関しては、新型コロナウイルス関連の補助金によるものです。

入院単価(急性期)は、令和3年度に対し2,067円増の71,269円。また外来単価は、令和3年度に対し1,427円増の22,704円、1日あたりの外来患者数が減少しているにもかかわらず単価が上がっているのは、化学療法等の高額薬剤を用いた治療が増加しているものと考えられます。

続きまして資料1の4ページ(別紙1)をお開き下さい。

1. 収支計画(収益的収支)についてです。

4年度の実績値になります。経常収益は上から10行目太線のところですが、135億9,400万円で前年度比16億9,500万円の増となりました。

中段にあります経常費用は、123億8,300万円で前年度比、2億6,600万円の増となり、経常損益では12億1,100万円の利益、純損益では24億4,200万円の損失となりました。損失の要因は、旧公立藤岡総合病院解体工事完了に伴う固定資産除却によるものです。

資料1の5ページになります

2. 収支計画(資本的収支)についてです。

収入は4年度、企業債の借り入れ1億4,300万円、構成市町村の企業債負担金5億6,200万円、補助金6,500万円、旧公立藤岡総合病院跡地売却による4億1,400万円の計11億8,400万円となっております。

支出は、医療機器の購入費等の建設改良費2億3,300万円、企業債償還金11億8,100万円の計14億1,400万円となっております。

以上、誠に簡単ではございますが、説明とさせていただきます。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長補佐兼庶務係長 櫻井】

続きまして、鬼石病院の改革プラン継続計画を、事務課の櫻井が説明させていただきます。着座にて失礼を致します。

資料2をご覧ください。まず、近年の経営状況につきましては、平成20年度から赤字に転落し、29年度まで赤字を計上。30年度にはプラス164万円と10年ぶりの黒字計上となりましたが、令和元年度には6,221万円の赤字を計上。2年度は、新型コロナウイルス感染症に関連する補助金等もあり484万円の黒字、3年度も195万円の黒字となり、4年度においても、入院収益が前年より若干減少したものの、外来収益では初診の患者数が増加したことや、補助金等が影響したことにより3年連続の黒字計上とすることができました。

それでは、1ページの上段でございます。病床数につきましては、一般病床52床と療養病床47床の合計99床を維持しています。一般病床では地域包括ケア病棟入院料をいち早く取り入れ、現在は全床で算定しており、主に、公立藤岡総合病院からの急性期後の患者の受入れや在宅復帰への支援に力を入れています。

診療科目におきましては、内科、外科、整形外科をはじめ計10科を標榜し、総合的な医療を

維持・提供しており、専門的な医療については基幹病院である公立藤岡総合病院へ紹介する体制をとっています。

続きまして、「(1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化」についてですが、当院は、奥多野地域及び埼玉県北部地域を診療圏とする病院として、地域住民が安心して生活できるよう、医療技術や設備の充実を図るなど、医療環境の整備に邁進してきました。

また近年は、国が推進しております地域包括ケアシステムの構築に向け、高齢化の進んだ地域医療を担う病院としての役割を果たすべく、地域包括ケア病棟入院料の導入や、在宅復帰を支援するための訪問看護・訪問リハビリ事業の拡充、介護系施設への往診、急性期を担う公立藤岡総合病院や退院後に関わる高齢者施設及び居宅介護などとの連携の強化等、様々な取り組みを継続実施しております。

それでは、続いて令和4年度における医療機能等指標についての実績値を報告させていただきます。1ページ下段の④医療機能等指標に係る数値目標をご覧ください。

在宅復帰率では、計画の目標値に対し、 -0.2 ポイント、医療機関からの入院件数では2.4件の減と目標値を下回りました。医療機関からの入院については、地域医療連携室を中心に、より一層周辺の医療機関との連携を強化していきたいと考えます。

訪問事業では、看護については -3.7 件、リハビリでは -25.8 件、通所リハビリにおいては、 -21.1 件とそれぞれ目標値を下回りました。在宅支援事業については、引き続き拡充に努めたいと思っています。

患者満足度については、 0.5 ポイント計画目標値を上回りました。このアンケートにより患者の貴重な意見が得られ、当院の理念である患者本位の医療の遂行のため、職員一人ひとりの意識を新たにしたところです。今年度以降も、目標値を上回るよう、努力を重ねているところであります。

2ページをお開き下さい。

(2) 経営の効率化について説明させていただきます。

まず令和4年度の①経営指標に係る各実績数値ですが、「1) 収支改善に係るもの」の中では経常収支比率が 101.8% で計画値を 1.3 ポイント上回り、医業収支比率は 84.6% で -0.8 ポイント計画値を下回る結果となりました。

2) 経費削減に係るものの中の診療材料費対医業収益比率は、計画に対し 0.9 ポイント増加、薬品費の対医業収益比率は、 1.0 ポイント増加、職員給与比率は、 1.6 ポイント減少、100床当たりの職員数は、1人の増加となりました。

3) 収入確保に係るものの1日当たりの入院患者数では 84.1 人で -4.9 人。1日当たりの外来患者数では計画値より -4.8 人となりましたが、令和3年度の実績値より 0.2 人の増加となっています。

病床利用率では 85.0% で -4.9 ポイントと計画値を下回りました。

続きまして3ページをお開き下さい。

(3) 再編・ネットワーク化についてですが、これまで述べてきたように、厳しい経営状況の中、持続した地域医療を提供するには、まずは、人材の確保が前提となります。ここ数年、医師や薬剤師等の補充に苦慮しているところでありますが、現在、公立藤岡総合病院、群馬大学

病院より医師を派遣していただき、病院機能の維持を図っている状況です。

続きまして4ページをお開き下さい。1. 収支計画（収益的収支）についてです。

経常収益は上から10行目太線のところですが、13億300万円で前年度比2,900万円の増となりました。経常費用は、中段の太線のところですが、12億8,000万円で前年度比800万円の減となり、経常損益では2,300万円のプラス、純損益でも同じく2,300万円の黒字となりました。

続きまして5ページをお開き下さい。2. 収支計画（資本的収支）、についてであります。

中段にあります支出の欄、令和4年度の建設改良費は4,900万円です。

建設改良費の内容は、医療機器購入費・車両購入費・工事請負費・土地購入費であります。購入した主な器具等は、移動型簡易陰圧装置・ベッドサイドモニター・免疫検査装置等で、また患者送迎用車両を1台購入しております。

施設整備については、設備の長寿命化を図るため空調設備改修工事実施設計委託や駐車場用地の取得を行いました。

続きまして6ページをお開き下さい。それぞれの経営指標をグラフ化したものとなりますが、青が計画、赤が実績となりますのでご覧ください。以上、誠に簡単ではございますが、説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。

【塚本委員長】

事務局からの説明が終わりました。委員の皆様からのご意見、ご質問をお願いしたいと思えます。まず、ご専門家としてのお立場から、木村副委員長より、ご意見をいただきたいと思えます。木村先生、よろしくお願いたします。

【木村副委員長】

両病院ともコロナ禍の中だいぶ頑張られている。公立藤岡総合病院については数値も戻り傾向であって、オペ数等も令和元年と同等に戻っているので特に心配ないと思えます。

診療報酬改定の影響も受け、これから先のスタッフの働きやすい環境もふまえ、平均在院日数も増やした方がいいのかとも検討されてはと思えます。

鬼石病院もすごく頑張られていると思えます。12ページ目の訪問看護の件数についてはみなしで訪問しているのかステーションとして訪問しているのか。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

ステーションとしての件数です。コロナ禍で利用者宅へ行けないなどもある中で職員についてはコロナになることもなく訪問へ行っています。

【木村副委員長】

もしかしたら、みなし事業所としての方が人材の有効活用と経営的に良いかもしれません。考えてみてください。通所リハビリは、リハビリ室でのリハビリということでしょうか

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

リハビリ室での件数で、通所の方を件数にしています。

【塚本委員長】

ありがとうございました。では、お一人ずつ意見をいただければと思います。栗原先生お願いします。

【栗原委員】

2つの病院に働いた経験もあります。両病院とも厳しい状況の中、すごく大変な思いをされており、気の毒な感じですか。

藤岡総合病院は、きちっとされて学問的レベルも高く、この数字を出されるということは尊敬しています。鬼石病院も厳しい状況環境のなか、この数字ですので立派だと思います。

在宅復帰率が令和4年度で80%ということですが、自宅に帰ったのは何%でしょうか

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

半分近くは自宅かだと思います。

【栗原委員】

それは良い数字ですね。というのも都会よりも鬼石から奥多野にかけて、隣家との距離が離れるので、医療側の労力が増える傾向にある。僻地の方では、人に施設の方へ集まってもらうような、往診というよりも施設に集まってもらう医療を行うことを国でも言っていて、これからの鬼石病院もその方向で頑張ってもらいたいと思います。

両病院とも非常に立派だと思います。以上です。

【塚本委員長】

ありがとうございました。では、続きまして源内委員さんいかがでしょうか。

【源内委員】

群馬医療福祉大学の源内と申します。よろしく申し上げます。実習では大変お世話になりありがとうございます。また、採用の際も近くの病院で良い看護師さんのいる病院ということでお世話になりありがとうございます。

地域包括ケアシステムを運用するにあたり、藤岡総合病院さん、鬼石病院さん、クリニック、施設、訪問看護などで会合を持っているのでしょうか。病院のみでなく地域で完結してほしいことなので患者さんや利用者さんにとっても必要な情報だとかを話すような会合をしているかを伺いたいです。

もう一つは、コロナ禍で国の補助金が入り、12億といった数字もあるのですが、その割合にしては、職員給与費が変わっていない。これだけの補助金をもらっていてもなぜ変わらないのでしょうか。それとも実際はあがったりしているのでしょうか。

【公立藤岡総合病院 参事兼しらさぎ管理課長 横坂】

一つ目の質問について、患者支援センターを中心として地域のケアマネを集めた会や医師会との意見交換会を年数回開催しています。

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

給与費に反映していないのではないかとのことですが、主に病床確保補助金で12億入っています。実際に反映されているのは、コロナに関しては定額の手当を支給しています。医業収益がふくらんでいることと、給与特例で賞与が下がっていることも比率が変わらないことの要因であると思います。

【木村副委員長】

公立病院の給与は 国家公務員準拠になっていて、国が下げろと言えば下がるものなので、病院に決める権限がないので、頑張ったから上げるといふ風には中々いかない。診療報酬を下げる議論もされているので、それをされると厳しいというのも公立病院の辛いところです。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

地域連携室や老健居宅のケアマネが地域の包括支援の会議に出席し連携を図っています。補助金については、公立病院なので上げるのは難しいんですけれども、コロナ患者と接したような職員には手当を支給しています。

【塚本委員長】

ありがとうございました。では、続きまして池田委員さんいかがでしょうか。

【池田委員】

経営収支比率をみると、両病院とも経営状況がかんばしくないと感じます。経営改善には、売上を伸ばし、経費削減するしかないと思います。

藤岡総合の4ページ収入の国県補助金12億入っていて、かなりの影響があると思うんですが、支出の経費で、4年度は17億9千万、5年度が21億6千万と3億7千万増えているんですね。これは削減といいながら増えているのは、何か理由があるのでしょうか

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

予算にあわせ経費が増えていることと委託費の経費が増えていると思われます。実際は、決算では20億を下回るような状況になると思います。

【塚本委員長】

ありがとうございました。では、続きまして反町委員さんいかがでしょうか。

【反町委員】

経営的な数字は以前に比べれば良くなったと思います。将来的に医師不足が問題になると言

われています。これからは、藤岡総合病院も鬼石病院も高齢化がどんどん進んで、子供の出生数も藤岡で300人を切ったので、これからの医師確保が危惧されますので、その対応の説明をお願いします。

また、市民からコロナが5類になったら、かかりつけ医にいても、藤岡総合病院に行っても、熱があつて診てもらえない、大変困ったということを知ったので、安心して医療を受ける意味でもその説明をお願いします。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

医師の確保は課題となっていて、幸い当院は県内医療機関との連携で一定の医師をなんとか確保できていますが、研修医や専門医制度が変わり、医師が集まりづらい状況です。現在の問題は脳外科も少なくなったことです。他の診療科も4月からの医師の確保に苦心しているという状況です。

コロナ診療は、以前は保健所からの依頼で検体を提出し検査する流れでしたが、今はどこの医療施設でも受診できます。内服薬も出せますので、インフルエンザと同じような扱いになっています。当院は紹介状ありきの病院で、かかりつけでない場合は初診料が大分かかってしまいますし待ち時間もかかりますと、窓口で説明したうえで了承してもらって診療をしています。重篤な基礎疾患をお持ちの方は、院内で検査しますが、そうでない場合は、周りの医療機関で検査するようしていることもあります。

【栗原委員】

いろいろな患者さんがいる中で、当番医の夕方に4日前から具合が悪くてわざわざ日曜の夕方に医者にかかるとか、インフルエンザも熱が出てからすぐ検査しても陽性にならず、解熱剤を飲んで一晩過ごしてみてくださいと医師だけが言っても広まらない。

時間ギリギリになってこられても検査もできないし、対応もできないのでそういった患者さんの心構えはいろんな所から広めていかないと変わらないと思います。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

当院は周辺に医療機関も少ないので、地域包括ケアシステムの充実が目標となっているなか、率先して実践させるような気持ちで、周辺施設の往診を進めています。発熱外来を常設しており、患者さんがいれば必ず受診してもらい、薬をだせるような体制を作っています。コロナ接種も進めており、地域の感染症防止に努めています。

【塚本委員長】

ありがとうございました。では、続きまして林委員さんいかがでしょうか。

【林委員】

コロナかもしれないと藤岡総合へ行ったが、熱がないからという理由で検査もされず支払い

が1万以上だった。帰り際に市販の検査薬でも買って見たらどうかと言われ、検査したら、陽性だった。もう藤岡総合病院には行かないと言っていました。

あと、入院単価、外来単価が増えるのは、なんとなくわかるが、計画が変わらないのはなぜなのでしょう。計画もあがっていいのではないかと思います。

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

診療単価は、化学療法による高額薬品の使用により、薬品費が伸びていて億単位の補正が必要となっている。計画では入院単価は下がっていますが、実績の伸びが大きすぎて追いついていない状況です。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

先ほども話しましたが、窓口で説明をしたうえで、受診してもらっています。1万以上かかったということは、他の検査はしたが、熱はないのでコロナ検査をしなかったのではないのでしょうか。その時の状況にもよりますが、微熱であっても検査しますので断ることはないと思うのですが、他の疾患のついでとか状況が分かりませんので何とも言えません。あとで患者さんのお名前を教えていただけるのなら、個別に対応しますのでよろしくお願いします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

当院も、入院、外来ともに単価が上がっています。発熱外来を行っており、コロナ関連の加算等により増えたと思われます。次年度からは、加算等もなくなることが予想されますので、このような計画となっています。

【塚本委員長】

ありがとうございました。では、続きまして守口委員さんいかがでしょうか。

【守口委員】

患者満足度について、鬼石病院は数年にわたり90%以上を続けている。藤岡総合病院は、3年度が65.8%、5年度が89%となっています。これは、食事や病室のトイレ等がよくないといった事や林委員が話したような内容のことも聞いています。夜間診療になると選定療養費がかかり時間外になると高くなるので、うちの社員がケガをしたんですが、高いから一晩待って別の病院に行った。また、診断書が出来上がるまでが遅いなどの、そういった理由で満足度が低いのではないかなと思います。

入院単価と外来単価が藤岡総合と鬼石病院とで3倍近くも違うのはなぜでしょうか。

鬼石病院は、医師が4人しかおらず、職員が123人で10科も診療科があるんですが、どうやって経営されているのか伺いたいです。

藤岡総合病院は4年度から5年度にかけて経費削減目標として職員数の見直しとある。その中で3900万増えているんですが、それは医師を減らすとか、看護師や職員を増やすとかどういった方針でこの数字が出たのか伺いたいです。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

当院は藤岡総合病院や群馬大学から医師を派遣してもらっている。その際に医師の専門、例えば皮膚科が専門であれば、皮膚科の診察を行っていることになる。常勤医師がすべてしているわけではなく、全体的な総合診療を行っています。救急で運ばれた患者さんが、そのまま入院したとしても藤岡総合病院と鬼石病院では、かかる診療報酬の額が病院の性格上そもそも違っている。国の定めたルールなので仕方ないです。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

病室における、食事や入浴について限られた予算の中で行っていて、疾患によって特別食になったり、普段とは違う食事になるので、満足度は低くなるのかと思います。シャワーも狭くて快適でないと思いますので、そういった意見につながる。

診断書は、できる限り努力してみます。

選定療養費は、紹介型中心の地域支援病院ですので全国一律かかってしまう。また、昼間に比べて夜間の方が高くなってしまうので、翌日まで我慢してとかいうのは、そういったルールになっているのでご理解をしてほしいです。

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

給与費が5年度は上がっています。削減目標で職員数の見直しを掲げているんですが、現状をふまえ加算算定の条件もあり、増やして収益を確保するということがあります。事務職員の退職者の不補充という削減対策もありましたが、事務職員の年齢層のバランスが崩れ、若い職員を採用せざるを得ない状況もあり、給与費の削減もなかなかできない状況となっている。

それと、5年度は予算の当初の人数で見込んでいますので、決算になるとだいぶ削減されるということになります。

【木村副委員長】

昇給も見込んでいると思いますので、上がるのもあります。

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

給与費は650人に対してでなく、その他に会計年度職員もいますので、それも含めた金額になります。

【塚本委員長】

全員の方から質問をいただきました。この他に、質問のある方はいますでしょうか。

【木村副委員長】

食事に関してですが、制限食を出す前においしくないものが出ますよと説明すると満足度が

上がることもある。塩分がほぼなく、カロリーが抑えられたもので、おいしいですかと聞かれたら、それはおいしくないと答える。栄養指導をする際とか事前に食べる前においしくないと伝えるのもありかと思います。普通食であれば、病院さんもがんばっていて最近では食べられるものもありますね。

【源内委員】

病院食は、栄養チームにより食べられない人に対して食べられる工夫をして、おいしい食事の提供しているんですね、制限食はおいしくないと最初から言われてしまうと、患者さんがかわいそうではないですか。ドレッシングとかの工夫もするのでもいいかと思います。

【池田委員】

入院した際に、退院する3、4日ほど前に食事についてきかれた。毎日、毎食、白米だったので、朝はパン、昼は麺とかにできませんかとお願ひしたら、変わったのでそういう事もあります。

【塚本委員長】

それでは、時間もありますのでこの議題については終了します。

(2) 公立病院経営強化プランの進捗状況について

【塚本委員長】

続きまして、議題(2)「公立病院経営強化プラン」の進捗状況についてです。事務局より説明をお願いします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

公立病院は、新型コロナ対応において、その重要性が改めて認識された一方、医師不足等により依然として厳しい経営状況が続いていますが、その中でも、経営強化に取り組み、持続可能な地域医療提供体制を確保するため新たに策定するものです。なお、当該プランは、地域医療構想と整合的であることが求められています。

内容としては、公立病院改革プランがベースとなりますが、改革プランの方針の一つ「再編・ネットワーク化」に代えて「機能分化・連携強化」を推進することとし、新たな課題への対応として「医師・看護師等の確保と働き方改革」「新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」などを盛り込んだプランとなります。このプランは令和5年度から9年度が対象期間です。

プランの主な内容ですが、(2) 医師看護師等の確保と働き方改革、(4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組みが重要な部分になると思われます。

藤岡総合病院と鬼石病院の進捗状況です。それぞれの病院より説明いたします。

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

これまでの改革プランは事務部門が中心にまとめていく傾向にありましたが、持続可能な経営基盤を確立するために各部門が実施すべき経営目標を明確にすることで、実現可能性の高いプランの策定に努めました。12月中の策定を目標に策定支援業務を委託し、これまでに各部門とのヒアリングや病床の運用に係る検討を行い、現在は分析内容やヒアリング結果をもとに順次プランの作成を行っている状況です。今後はプラン作成とともに院内の意思決定に基づいた運用ルール等の策定を行い、ルールに基づく管理を行うことで、プランを実行していきたいと考えております。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

当院では、現状の病院規模を維持しながら、過疎化や少子高齢化が進む山間地域の医療を確保することや公立藤岡総合病院等の急性期病院の後方支援としての役割分担と連携強化、地域包括ケアシステムの維持などを基本方針として作成しています。経営強化プランも既存の改革プランと同様に概要版を作成することとしており、現状では、プラン案を市役所内関係部署の課長で構成する、病院老健検討部会の会員から意見等の聴取を行い、地域医療構想と整合的である必要があるため、群馬県市町村課へプラン案を提出し内容の確認をいただいているところです。今後、プラン内容の点検と修正を行い、議員説明等の手続きを踏み、今年度内に完成させ公表する予定です。

【塚本委員長】

事務局からの説明が終わりました。委員の皆様からのご意見、ご質問等をお願いしたいと思います。

質問等ないようですので、この議題については終了します。

(3) その他

【塚本委員長】

次に「(3) その他」となります。委員の皆様から何かございますか

ないようですね。ありがとうございました。それでは、ここで議長の役を終了とさせていただきます。熱心な討議をありがとうございました。

5 閉 会

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 金沢】

委員の皆様方には、長時間のご議論をいただき、大変ありがとうございました。今回、いただきました貴重なご意見は、参考にさせていただき、病院経営に役立てさせていただきます。以上をもちまして、「公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評

価委員会」を閉会させていただきます。本日は、大変ありがとうございました。

午後 7 時 5 0 分 閉会
